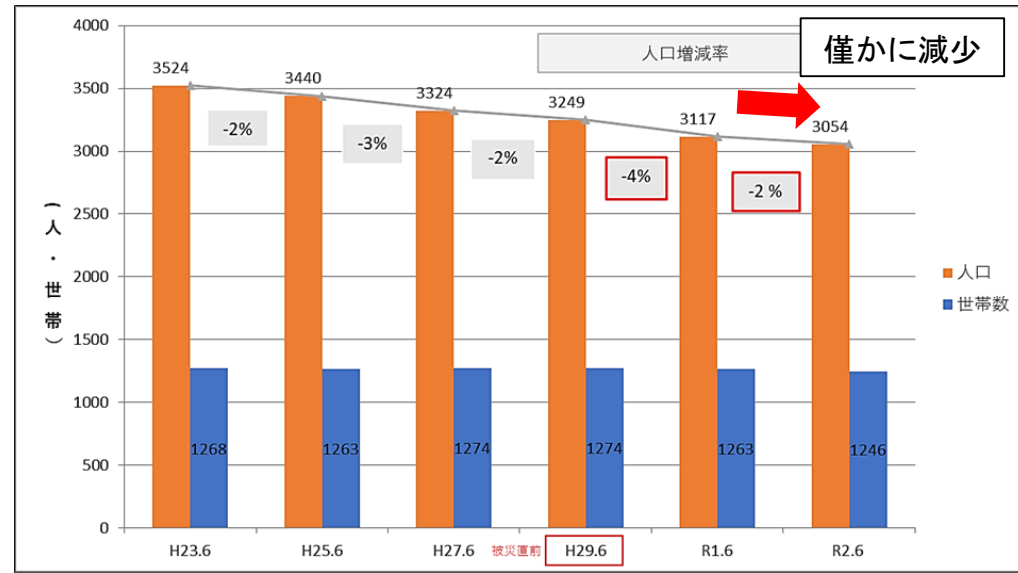


朝倉市復興実施計画(三奈木地区) 概要版 令和3年3月

(1) 三奈木地区の現状



令和2年6月末時点
人口: 3,054人
世帯数: 1,246世帯

(2) 平成29年7月九州北部豪雨被災状況

り災証明書交付状況に基づけば、損壊が著しいとされる全壊・大規模半壊については、市全体で379件。このうち三奈木地区は3件。三奈木地区では、荷原川の洪水が大量の土砂や流木とともに流下し、河道閉鎖等とあいまって河川が氾濫し、周辺家屋などへの被害を拡大させた。

朝倉市各地区における住家等建物被害の概要(り災証明書交付状況による、平成31年3月31日時点)

	松末	杷木	久喜宮	志波	朝倉	高木	三奈木	蟻城	その他	計
全壊	95	44	31	28	22	34	2	1	0	260
大規模半壊	19	22	50	4	19	5	1	0	0	119
半壊	37	41	73	21	269	20	29	157	19	664
一部損壊	35	30	32	15	165	36	29	64	21	428
計	186	137	186	68	475	95	61	222	40	1,471
平成29年6月総世帯数	253	1,210	727	592	2,705	186	1,274	635	13,344	20,926
平成29年6月総世帯数に対する被害割合	74%	11%	26%	11%	18%	51%	5%	35%	0.3%	7.0%

(3) 今までの意見(復興計画策定時の主な意見)課題

- 荷原川の改良復旧
- 久保鳥の石造桁橋(六本松橋)、鞆橋の早期復旧
- 土砂対策、流木対策
- 佐田川流域の内水対策及び治水計画の検証
- 朝倉農業高校跡地の活用 等

(4) 今年度の意見(令和2年度まちづくり協議会等で出された主な意見)

すまいとコミュニティの再建について

—

安全な地域づくりについて

- 荷原川の旧井堰の撤去・改修について(固定堰or可動堰)知りたい。
- 上組の固定堰に流れ込み水路(暗渠)があり、そこが大雨時に度々溢れているので、対策をしてほしい。
- 鬼ヶ城の荷原川の管理用道路について、高低差はあるものの、現在の道路と繋げてほしい。
- 坂の下ため池について知りたい。
- 旧朝倉農業高校跡地について、避難所の整備をお願いしたい。
- 次年度以降の復興計画(防災計画)において整備計画を盛り込んでもらいたい。等

産業・経済の復興について

—

(5) 第1回地区別復興まちづくり協議会

日時: 令和2年6月29日(月) 13:30~14:40
場所: 三奈木コミュニティセンター
参加者: 三奈木地区 22名、朝倉市 11名



議事内容

朝倉市

- 生活再建状況について
- 復興計画の進捗について
- 朝倉市復興実施計画について

質疑内容

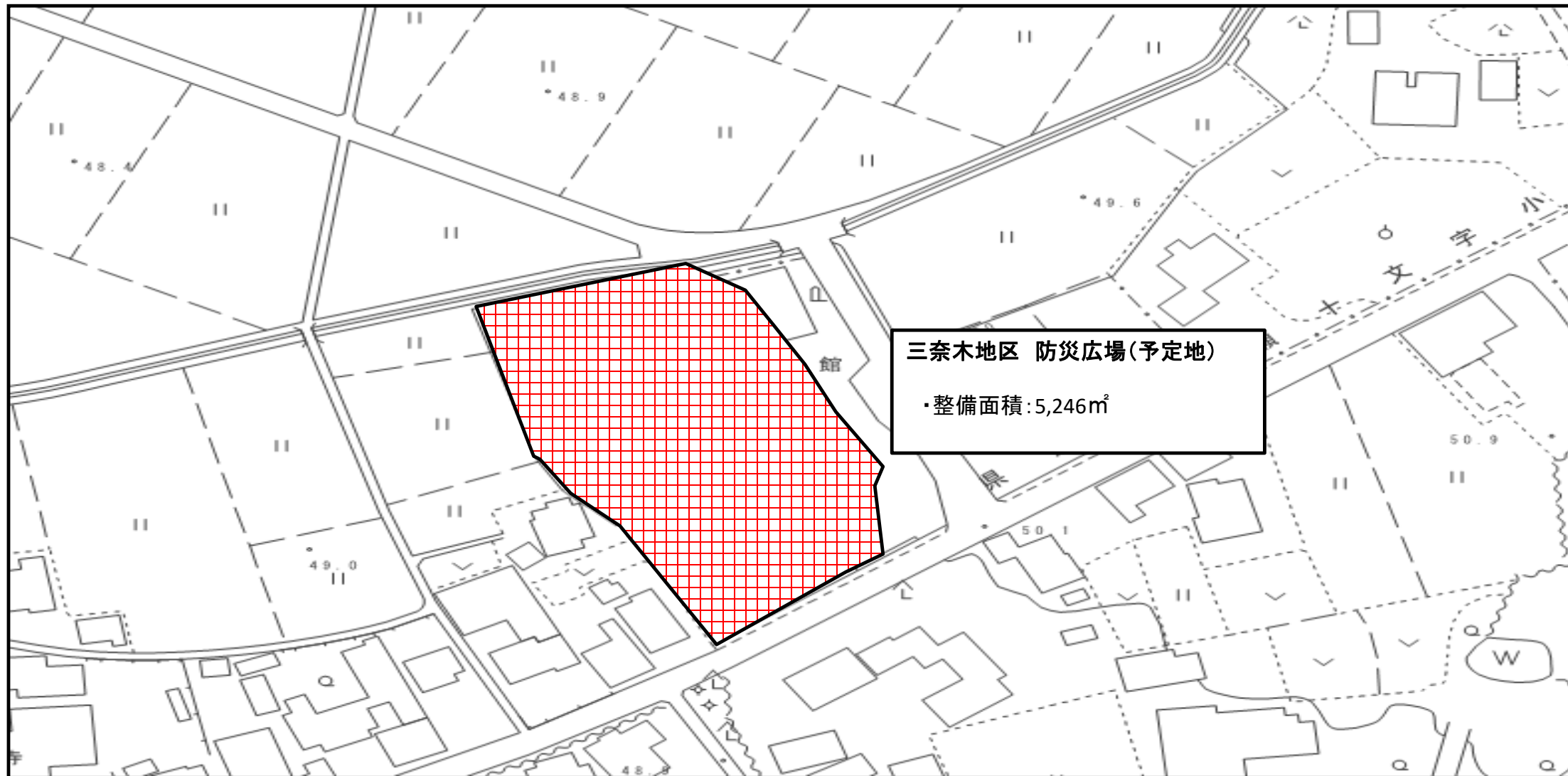
- 荷原川鬼ヶ城上流の砂防ダムの工事の進捗状況について教えて欲しい。
- 下流の久保鳥橋付近の工事の進捗状況について教えて欲しい
- 寺内ダムの現在の利水状況と今後、どのような計画があるか教えて欲しい
- 何故流木が流れてくるのか。昔は間伐など山の手入れをよくやっていたが、最近では山の手入れを行っていない。記録的な豪雨の時は間伐されていない流木が流れ出て、水の流れが変わり川を塞ぎ被害を受ける。よって、川幅を変えても流木が流れてくれば川の流れは変わってしまう。ただ、ダムの下なのでそういった事は考えられないのかもしれないが、流木になるようなもとなる山の手入れをこれからは考えていかなければならない。
- 荷原川は県と市の管轄が分かれており、県の管轄は100mごとに川に降りる箇所を作ると言われて階段はできたが、市の管轄には階段等はない。掃除などで降りる場所がないため、市の管轄の方も検討頂きたい。
- 復興施設としてコミュニティセンターの活用、駐車場を防災広場として活用するなど検討が必要である。建設委員会は基本的に運営委員会が兼務する形となっており、建設委員会の中で考えていきたいので、各団体のご意見を頂きながら決定していく。また、できるだけ行政の力を借りながら良い施設ができるようにしていきたい。

(6)復興にむけた具体事業

①防災広場の整備検討

三奈木地区における、災害時における受援体制の整備として、救助活動及び支援団体等の車両を含めた拠点として利用が可能となるよう整備をし、地域防災力の向上を図る。

また、平時は広場として利用し災害時は支援団体等の拠点として利用できるよう、車両等の乗入れが可能となるように、コミュニティセンターと一体的な敷地を防災広場として、かまどベンチや災害対応外灯などの整備を検討する。



三奈木地区防災広場の平面図